

みくびだより



御挨拶

謹啓 師走の候、皆様方には愈々御健勝の事とお慶び申し上げます。

去る六月十四日、香淳皇后(皇太后陛下)におかれましては全国民が御病状を案じ申し上げる中崩御遊ばされました。ここに謹んで哀悼の意を表しあげます。

思い起しますに、香淳皇后は我が日本国の未曾有の激動の時代にあつて、昭和天皇のお側近くにあられていつも深く御心を尽くされ、国民のだれもが「国の母」と仰ぎ、長き歳月にわたり、皇后様としての規範を見事にお示しになられました。今はただ幽界に鎮まりましてのご冥福をお祈り申し上げます。

国内情勢では、伊豆諸島の噴火、それに伴う地震、東海地方の記録的な豪雨や鳥取県西部での震度6を超える大地震等相次ぐ天災により、尊い人命が失われました。又、河川の氾濫家屋の損壊、床上床下浸水、農作物の被害や山崩れによる公共交通機関の麻痺等、膨大な被害を見る時、改めて自然の脅威に震撼いたすと共に、このたび災害に遭われました皆様方には心よりお見舞を申し上げます。

尚、昨年着工の末廣稻荷神社(境内社)御鎮座五十年記念事業に於きましては、皆様の格別なる御奉賛を賜り誠に有り難う御座いました。お陰をもちまして本殿内部の装飾を始め本殿周囲の板垣・鳥居・灯籠等を新調いたすと共に、御神域の整備も滞りなく完成を見る事が出来、去る七月二十三日に酷暑にも関わらず多数の参列者を迎へ、恙無く奉祝祭を斎行致しました。此処に厚く御礼申し上げますと共に、今後尚一層の御協力をお願い致す次第であります。

最後に、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受されまして皆様の愈々の御健勝と御多幸を心より祈念致しまして御挨拶とさせていただきます。

『「い」ろをつくる』

世間の人々が信仰に入って疑問を抱くことの一つは、信仰をするといろいろな面でお金がかかることです。信仰とはあくまでも人間の精神に関する事柄であって、物質的なお金とは関係がないと考えられています。信仰は「こころ」の営みであるが故に心の問題があくまでも中心でありますが、はたして心は物質やお金とは全く無関係なのでしょう。

おいしいご馳走が食べたい時はお金を出せば叶えられ、きれいな洋服が欲しいと思えばお金を払って手に入れることができる。

このように物はお金を媒体として所有が許される訳です。

これが芸術とか文学或いは趣味となるといくらか事情が違ってくる。美術館での絵画や骨董などは楽しまなくても生活に支障はないし、音楽は聞かなくても働けないというものでもあ



りません。それは自分が好きだから見たり聞いたりするだけで、いわば心の楽しみを買うわけです。例えば有名な歌手が地方へやって来るとなると、どうしても聞きたいと思う人は、食べる物や着るものを節約してでもその切符を手に入れようとする。これはその人の精神生活にとっては必要なことだからなのです。

又教育の中で学校教育があります。義務教育は中学校迄で高校や大学は個人の自由意志となつていますが、世の親たちは少しでもより高い教育を身につけさせたいと、莫大な費用をかけます。そしてよりよい学校へ入学させようとして、毎月何万円ものお金を払って家庭教師を頼んだりもしています。人間は学力さえつけておけば将来出世をして幸福になれると思ひこんでいる人が多いが、必ずしも幸福になれるとは断言出来ません。得てして頭のよい人間程排他的で自己中心型が多いものです。中途半端に頭のよい人間がオウムなどの宗教(宗狂)教団に洗脳されて入信し、前代未聞の大量殺人犯罪まで引き起こしたことは周知の事実であります。彼らの親にしてみれば、教育をお金で買ったその結果がまさかこのようなかたちになって現れてくるとは思っても見なかったでしょう。

立派な家に住み、毎日ご馳走ばかり食べても家の中で喧嘩ばかりしていて、いがみ合つてばかりいれば決して幸福とは云えないし、どんなに頭がよく一流大学を出たとしても、金の使い込みなどをやるようではどこへ就職しても駄目です。プロ野球やサッカーの選手にしても同じことで、どんなに体力や技に恵まれていても、相手の欠点ばかりを指摘して文句を云つてチームの和を乱したり、酒で身を持ち崩したりして落伍してしまう人も多い。これららみな「心」が出来ていないからなのです。しつかりとした心をつくるにもそれなりの教育が必要であり、それにも多少のお金はかかります。道徳や精神教育などで、ある程度まで「心」は出来るでしょう。しかし本格的な心づくりは信仰しかないと言えます。

社会という道路からはみだした心の悪い人でも信仰の道を極め

ば、すきんだ心は必ず本来の姿に甦生できます。

世間の人は、毎日の食べ物や着る物とか住む家などにお金を使うことは知っています。余裕のある人はゴルフや旅行に金を使うこともよく知っているし、子供の教育にもお金を惜しみません。しかしそれよりも大切な「心」をつくるために、お金をかけることを知らない人が大半です。

食べ物や喉元を過ぎればそれまで、着る物や住む家は時間と年月が経てば古くなってゆきます。しかし心だけはいつまで経っても古くはならないし、その人の一生の財産として益々人格の形成に威力を発揮してくれるので、自分達にとっては非常に安い買い物ではないでしょうか。そんな値打ちのある心づくりに、多少のお金をつぎ込んででも惜しくはないはずですよ。

心をつくるには信仰がいちばんと言いましたが、信仰は心をつくる学校であるとも云えるし、傷のついた心の修理工場でもあるのです。その教師は宗教家であり教室は宗教施設です。キリスト教の教会には神父と呼ばれる人がいます。仏教の寺院には住職が居て佛の教えを説き、神社には神職が居て神さまの中執り持ちをしています。総て神さまが主人でありその神さまの心や教えを伝え、お祈りをしているという訳です。

こういう宗教施設という学校があり、宗教家という教師があつて信仰者は神さまの教えを知り、生き甲斐を感じることができるようになります。その喜びから神さまに報恩の意味で、生活に支障のない程度のお金を捧げることは当然のことで、そのお金によって宗教施設が存続し、宗教家の生活が保証されます。そこで宗教家は更に神さまの教えを広め、世の人の心に喜びの種をまいてゆくのです。つまり信仰者が神さまのためにつくしたお金は、やがて人を助けるのに役立つ間接的な人助けに繋がってゆくのです。

私たちは現代の物質優先主義の影に隠れて、忘れ去られようとしている心、真の「こころづくり」が出来るよう、日夜努力精進したものです。

禰宜 上松 雅之

ちよつと一言

こんにちは、社務所より一言御案内申し上げます。

年の瀬も大分近づいてまいりましたので、おふだ・お守り・紅白串・御神砂等の御返納方法について簡単に説明致します。

当社の場合お札・お守り・紅白串・御神砂については、拝殿前の賽銭箱の左側に設けてある、専用の返納箱の中に種類別に分けてお入れになって下さい。その他、神棚・しめ縄・破魔矢は左義長（一月十五日）にお持ち下さい。時期的にそれまで待てないと言う方にはお焚き上げの御祈禱（なるべく平日で晴天・無風のときに限りま）が御座いますので、お問い合わせ下さい。

他の神社のお札・お守りは、受けられた神社へ戻されるのが最良ですが、止むを得ない時は当神社へお持ちになられても結構です。但しご返納の際、金物類やガラス等の燃えない物はお手数ですが事前に取りはずしておいて下さい。

場合によっては一部お預かり致します兼ねるものも御座いますので、前もってお問い合わせ頂きますようお願い致します。

返納された御神砂はご神域へお戻しいたします。おふだやお守りにつきましては左義長神事の後お炊き上げをし、紅白串は浄火祭の折にお炊き上げ致します。

又、寺院関係の物については、必ず寺院にご返納頂きますようお願い致します。尚、返納物に閑しまして疑問を抱かれましたら、遠慮なく社務所へお訊ねになつて下さい。

権禰宜 大野 弘樹



祭事報告

御首神社ホームページ
開設の御案内末廣稻荷神社
御鎮座五十年記念奉祝祭

▼西宮神社例祭（相殿） 七月十七日午後三時
▼末廣稻荷神社御鎮座
五十年記念奉祝祭 七月二十三日午前十時

▼末廣稻荷神社例祭 八月 六日 午後三時
▼夏越大祓 八月 六日午後三時半

夏の厳しい日差しの下、夏越大祓が厳肅に齋行され、皆様方が罪や穢れを託された人形は祓い清められ、忌み火にてお焚き上げをいたしました。

▼長寿祈願祭 九月 十五日午後四時

▼神明神社例祭 十月 十七日午後三時

▼七五三参り 十一月 一日〜三十日

十一月に入り、週末ともなりますと、いっものながら大勢の子供達が、両親や祖父母に付き添われて参拝に訪れます。特に十二日は、十五日に近い日曜日とあって、境内は晴れ着姿の子供達が多く、ぬいぐるみと遊んだり、コリントゲームに興ずる元気な子供達で一杯でした。又、例年のように参道には屋台が並び、とうもろこしやお菓子などを両親やおじいちゃんおばあちゃんにおねだりし、おいしそうに頬ばっている姿も多く見られました。

▼崇敬会大祭 十一月 三日午後二時

晴天に恵まれた文化の日、各地から多数の崇敬者を迎えて、会員の無病息災、家内安全並びに子孫の繁栄を祈願申しあげました。

▼新嘗祭 十一月二十三日午後三時

この夏から当神社でもホームページを開設いたしました。

ホームページとは、最近テレビやラジオ等でよく、インターネットと云う言葉と併せて聞かれる方が多いと思います。



さて、インターネットとは、パソコンで世界中の団体、企業、個人等の情報を知る事が出来るシステムです。そして、ホームページとは、インターネットに団体や個人が出す掲示板のようなもので、この掲示板を見る為にはアドレス（いわゆるインターネット上の住所）が必要です。例えば当神社のホームページを見る為のアドレスは (www.mikubi.or.jp) となります。

素人の製作で、しかも初めての経験であり出来映えも悪く、未熟なホームページではありますが、機会がございましたら是非一度ご覧になってみて下さい。

昨年からすすめてまいりました「末廣稻荷神社御鎮座五十年記念事業」におきましては多数の皆様のご奉賛を賜り、誠に有り難うございました。お陰をもちまして鳥居十二基・灯籠十四基そして本殿の板垣の新調と、ご神域の整備も立派に完成し、去る七月二十三日（日曜日）ご奉賛者を始め工事関係者をお招きして、無事に奉祝祭が執行できました。ここに厚く御礼を申し上げます。

尚、これを機会に「のぼり」の奉納場所を増設致しましたので、多数ご奉納頂きますようお願い申し上げます。

権禰宜 谷口 哲也



地鎮祭について

住宅や工場など建物を建てる際に行われる神事に地鎮祭があります。地鎮祭の起源は、古く持統天皇の御代（西暦六九〇）にこの祭りの記録が見られ、古代より土木・建築等に伴う重要なお祭りとして行われてきました。一般には「じちんさい」と云い、正しくは「とこしずめのみまつり」と読みます。

地鎮祭は、これから建設工事を始めるにあたり、その土地を守護される神様を祀り、事の由をご報告し、土地をなごめ、ご祭神のご神徳により、建物の無事完成と住む人々や工事関係者に到るまで、災難に遭う事のないように祈願する意義深い重要なお祭りです。

吉日の選定ができましたら最寄りの神社か神職に出張の依頼をいたします。当日は施工主、設計業者、施工業者などできるだけ多くの人の参列をお勧めいたします。

さて、地鎮祭を行うにあたり、敷地のほぼ中央か、建物の重要な所に南向き、若しくは東向きに祭揚を設け、四方には忌竹といって笹の付いた青竹を四本立て、注連縄を張り巡らし、その中に祭段を舗設します。

一番奥に神籬（ひもろぎ）といって、榊や竹に紙垂（しで）と麻をつけたものを神様の依り代とし、その前面に机を設け、お供えの台として、お米やお酒、塩を始め山海の珍味を選んでご神前にお供えします。

祭揚の舗設と祭器具は施工業者が一括して準備してくれる場合もあります。

最後にお祭りの後で参列者が一同に会して御神酒やお下がりを戴き、お祝いすることを直会（なおらい）と云います。神と人とが直り会うと云う意味で行いますので、この直会で神様の御神徳を身に受けて下さい。

又、祭典後簡単に盃で御神酒を戴くだけのときもあります。



尚、地域やその場所により祭場の舗設の方法やお供え物等、用意するものが異なる場合もありますので、詳しいことはお近くの神社か神職にお尋ね下さい。

当神社でも地鎮祭等、諸祭を受け付けております。
権禰宜 馬場典之

崇敬会入会のご案内

入会の方法

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ます。御参拝の折、社務所にてお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。お申し込みされますと、神前にて入会報告祭が執り行われ、会員証・認定状等が交付されます。

会費（年会費）

- 一、個人会員 三千円以上お志し
- 一、家族会員 五千円以上お志し
- 一、特別会員 一万円以上お志し
- 一、法人会員 二万円以上お志し
- 一、名誉会員 三万円以上お志し

会員の特典（抜粋）

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈祷が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭、秋の崇敬会大祭には御案内申し上げ、大祭特別祈祷神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越、年越大祓にはご案内申し上げ、ご祈祷致します。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になられますと、会員は昇殿参拝が許されます。

祭事案内

▼年越大祓 十二月三十日午後三時
皆様方が半年間に知らず知らず身に受けた罪穢災禍を人形(ひとがた)に託し、忌火を以てお焚き上げする神事です。

▼元旦祭 一月一日午前〇時
記念すべき二十一世紀の幕開けを寿ぎ、世界



の平和と我が国の弥栄そして皆様方のご多幸を、御首の大神様に祈念申し上げます。
引き続き家内安全等の御祈禱も執り行なっています。

▼左義長 一月十五日 (月曜日) 午前十時
一年の間、御守護戴きました御神符・お守を始め注連縄・門松、縁起物(熊手・破魔矢)等をお焚き上げる年に一度の神事です。

最近環境汚染の規制が厳しくなっておりますので、ビニール・プラスチック類はご遠慮願います。尚、当社社では左義長を、曜日に関係なく毎年一月十五日に執り行なっております。

▼浄火祭 皆様が集納された帽子や祈願絵馬又、御祈祷の際御神前に奉られた金幣串、その時お渡し致しました紅白串を厄男が皆様方の心願成就を祈願し火炉に投じてお焚き上げする祭りです。



二月三日午前十時

この日に限り不要になりました帽子等がありましたら、お焚き上げ頂いてもかまいませんのでお持ち下さい。

▼祈年祭 二月十一日午後三時

▼御鋤神社例祭(境内社) 三月十七日午後三時

▼例大祭 四月二日午後三時

年に一度の大祭で、前夜と当日の二回、大神様に氏子の子供達による打ち囃子の奉納があり、当日は早朝より子供神輿のご巡幸があります。また境内では演芸が催され、屋台も並び、終日賑わいを見せます。

▼南宮神社例祭(相殿) 五月 四日午後三時

▼お田植え祭 六月 初旬

▼農休み祭 六月 十日午後三時

権禰宜 高田 豊彦

厄除開運祈禱

古来より「大厄には諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び何かとままならぬことが多くなります。

前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。御祈禱を受け毎日を平穩に過ごしましょう。

		平成13年 厄年に当る生れ年		
		前厄	本厄	後厄
男子	42歳	昭和36年	昭和35年	昭和34年
	25歳	昭和53年	昭和52年	昭和51年
女子	33歳	昭和45年	昭和44年	昭和43年
	19歳	昭和59年	昭和58年	昭和57年

▼本年度崇敬会よりの奉納

◎末廣稻荷神社御鎮座五十年記念事業奉賛

鳥居一基・灯籠一基・幡十対・御神域整備

◎御首神社 職一対

以上有難うございました。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一八三の一
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇

ホームページ www.mikubi.or.jp

Eメール syanusyo@mikubi.or.jp